

鹿ノ台川柳教室

八月二十一日(月)

お題「雲」(連記)

野々村アキラ選

参ったな次は俺だよ雲ゆきが

えいじ

今もなお雲に隠れた天ノ川

哲子

あかね雲戦ありとの物語

ミノル

富士の山雲つらぬいて笑顔みせ

登美

紺碧の空際立てる雲の風

広子

ふっきた心迷い夏の雲

よう子

雲上の人と呼ばれて三日たつ

正清

八十路にも心の旅路両陛下

千楽

雲つかむ話過ぎれば疎ましい

乃り子

友さらば零戦飛んで雲の峰

宏樹

支持率が下がり胸中乱れ雲

勝利

雲ひとつない青空は間が抜けて

英二

千切れ雲君もそんなに淋しいか

良一

雲掴む儲け話にまだ懲りず

義雄

秀薄曇り日傘も似合う君二十才

よし尚

㊦流れゆく雲に教わる処世術

アキラ

自由吟(共選)

原 広子選

期待に反く返事メールでそつと打つ

乃り子

夏祭り一人留守居で蚊やり焚く

よし尚

同期会いつも変らぬ顔がある

えいじ

次の世を託し特攻死出の旅

登美

一人食う茶碗は広辞苑の重さ

良一

独り者手形を切つて老いの恋

宏樹

諍いを避けて平伏すことに慣れ

勝利

結婚します昔三つ指今ライン

英二

婚約の指輪を二つはめている

正清

片意地を張り老残に身をさらす

勝利

白球を追い勝ち学び負け学び

アキラ

美しく老いるに矢張り金が要る

宏樹

ここだけの話の言つた言つてない

アキラ

肩の荷を半分降ろし墓参り

英二

庇うのも突き放すのも愛だろう

良一

㊦蝉ほどは鳴かず飛ばずに永らえる

義雄

㊦孫が来て教えてくれた老いの程

広子

自由吟(共選)

笹倉良一選

次の世を託し特攻死出の旅

登美

蝉ほどは鳴かず飛ばずに永らえる

義雄

期待に反く返事メールでそつと打つ

乃り子

同期会いつも変わらぬ顔がある

えいじ

梅雨明けを聞かぬまに秋今年の夏

登美

歳かなあ夏の花火にあはれみる

よし尚

渋滞で遠いふるさとより恋し

潮騒へ少年矢庭に走り出す

大合唱名曲の名は蟬時雨

美しく老いるに矢張り金が要る

筋力が落ちて上がらぬうつの量

白球を追い勝ち学び負け学び

⑧片意地を張り老残に身をさらす

⑨庇うのも突き放すのも愛だるう

お題 「這う」(五選)

②父母の墓二匹の蟻が右左

③辛酸を嘗め蟻の列這い続く

命の洗濯だったねカメさんよ

プロセスは這ってでもいい金メダル

這い松とこけむす岩に歴史あり

這うように歩んできたよ細い道

まっすぐに蟻の目線で日本見る

にじり寄るまだ届かない昼気楼

④子パンダの這い這い見てる平和の輪

這えば立て立てば煙たい親となり

這い這いの目が離せない好奇心

⑤地を這って泥水を飲む心地良さ

⑥地を這って内野を抜けた決勝打

哲子

義雄

乃り子

宏樹

正清

アキラ

勝利

良一

英二

宏樹

千楽

乃り子

登美

えいじ

哲子

正清

よし尚

ミノル

アキラ

正清

アキラ

大丈夫この一言で這い上がる

⑨人間も地を這う虫も神の意志

⑩どん底を這っても野心捨てぬ意地

⑪地を這って生きる虫にもある宇宙

* 「支持率が下がり胸中乱れ雲」 連記はいつも賑やか。

きょうも多彩な「雲」に。天ノ川、富士と平和な光景から、

ゼロ戦、支持率、と心騒ぐモノへ。

結局、よし尚さん「薄曇り日傘も似合う君二十才」が秀句に。

彼は昨年夏、参加して以来、初の栄冠。

酷暑も、そろそろ終盤か。十六人が参加した。

句会后、ビールで乾杯、皆さん「ご苦労さん」。* 千楽

次回九月十八日、午後一時から、西集会所。

お題、「愛想」、「深い」、それに「自由吟」。各二句。

「愛想」は連記で一枚の短冊に二句とも書く。

「自由吟」は選者二人の共選、二部提出のこと。

* 「脳トレに 仲間作りに 川柳を」楽しくやっています。

川柳教室の見学ご自由に。ご入会大歓迎です*

問合せ

五十嵐修 (79・0751)、原広子 (79・0061)